

# サポートセンターはどこへ行く? 《後》

町政を考える会 代表 村端 浩

## 当初の構想

2010年に町でサポートセンター構想が構想された背景には、高齢化の進行による町民活動の停滞や担い手不足などがありました。

そこで、町民活動を支援するために、住民自身がボランティアで運営するセンターをつくろうという気運が高まってきたのです。

町長の委嘱でその構想を審議した「運営協議会」では、福祉会館の一室にセンター本部を置いたかどうかとか、さらに多数の公募ボランティアを集めて運営にあたるようにしたらどうかという話も出ました。

もちろん事業開始にあたり



では事前の庁内でのプロジェクト・チームの議論をふまえて、初期費用や最低限の人員費は当然の前提条件となっていました。

ところが、前町長は庁内での議論に背を向け、ボランティアが前提だから「予算はゼロ」だと言い放って協議会での議論を白紙に戻したのである。教育長も「小さく産んで大きく育てる」のだと町長のこの立場を迫りました。

その結果、この構想は頓挫。委嘱されたコーディネーターも公募委員も全員辞表を出して抗議するという前代未聞の結果に終わりました。にもかかわらず、町長は独自の判断でその後公民館内にサポートセンターを作ったのです。

## 予算ゼロで運営されたのか

実際には、平成27年度までは人件費を中心に200万円

300万円の予算が計上され、一人の担当者によって細々と運営されただけ。

さらに平成28年度からは、地域おこし協力隊員がこれに担うようになり、運営資金を含めて約320万円の予算がつけられるようになりました。

もともと、前町長も教育長も当時は議会で予算を含む方向付けをしていたことは周知の事実でした。

ところが「予算ゼロ」を口実に自ら設置した協議会での審議を白紙に戻しながら、実際には素知らぬ顔で予算措置をする。これほどひどい背信行為はありません。

## サポートセンターへの視点

サポートセンターの理念と方針はどうあるべきか。もともと、その仕事の最も重要な役割は、いろいろな悩みを抱える町民団体の相談に乗り、その活動を下から支えるとともに、何かを始めたいという町民の意欲を形にし、横につな

ぎ、広げること、さらには行政との連絡役を務めるという、いわば連絡・調整・組織の機能にありました。

では、それを誰が担うのか。

当初の構想では、町民活動を活発に展開し経験を積んだ多数の有志によって自主的に運営されることが望ましいと考えられました。町民自身がこの運営にかかわって町民活動を多面的にサポートする、ここに最大の眼目があったのです。

残念ながら、その後のサポートセンターの実態は、それとは大きくかけ離れ「小さくひ弱に生み落とされ、細々と生き延びた」に過ぎませんでした。

昨年度から開始された「新生」サポートセンターは、「地域おこし協力隊員」一人がその運営に携わっています。

献身的に活動を支えていることは傍目からもよくわかるだけに、本当にそれでよいの

か、大きな疑問を感じます。

## 同じ誤りを繰り返してはならない

行政は単年度主義であり、また縦割りですから、過去を総括し教訓を活かして次の施策につなげることはほとんどありません。人事異動があれば、同じ取り組みでも新しい企画とされてしまいがちです。

しかし問題は今後の町民活動全体にかかわる大切な事業です。過去に真剣な議論が行われたことを無視して、場当たり的に新しい施策が行われていくわけがありません。

地域交流センター建設を目前に控えている、過去の総括の上に立って、町民の自発性と創意を活かした施策へとしっかりカジを切るべきではないのでしょうか。

(おわり)



## 「共謀罪法案」強行採決

### ターゲットはあなたです!

憲法が保障する内心の自由を侵害する「共謀罪」法案の衆院本会議での採決が23日に強行され、自民、公明、維新などの賛成多数で可決されました。

「共謀罪」法案は、日本国憲法が保障する思想

## まさきにひっかかるのは政府に反対する人たち



## 「一般人」か「犯罪者」か 決めるのは警察!



画像提供 しんぶん赤旗5月7日号

## コラム 有明

▼昨年1月に工事着工した松本協立病院の新棟が完成し、6月1日にオープンします。▼それに先

立って5月21日に内覧会が行われ、池田町の健康友の会員4名で見学しました。新棟は5階建てで1階は外来エリア、2階から4階は病棟、5階は手術室です。手術室が今までの2室から3室に増えました。一番広いのは心臓手術の部屋で、大きな手術用モニターが設置されていました。2階の病棟には木を植えたデッキがあり、入院患者さんがほっと一休みできる場所だと思いました。▼入院して一番心配なのは入院費です。リニユーアルで個室が増えましたが、差額ベッド料は徴収していませんので、安心して入院できます▼40年以上前に職員数名の小さな診療所から始まった歴史を知っているだけに感無量でした。「いつでも、どこでも、誰もが安心してかれる医療」を目指してこれからも頑張つてほしいと思います。▼今後、旧棟の改修が行われ来年春には全館グランドオープン予定とのこと、楽しみです。